

## 経緯

【 第26回情報セキュリティ政策会議（2011年7月8日）】

- 「情報セキュリティ研究開発戦略」を政策会議において決定



- 研究開発戦略を具体的に推進するため、「情報セキュリティ研究開発ロードマップ(案)」を作成し、意見募集を実施

## 意見募集及び結果の概要

- 実施方法 : 内閣官房情報セキュリティセンターのWebページ上に掲載して公募
- 実施期間 : 2012年6月5日(火) ~ 19日(火)
- コメント総数 : 2件【内訳 : 2個人から各1件】
- コメント概要 : 研究開発自身を進めるための社会科学的戦略研究の配慮要望  
攻撃者の行動分析等による予防基盤技術についての補足案

## コメントへの対応

- 戦略研究についてのご意見は、技術戦略全体の課題として、今後の検討に当たっての参考とさせていただきます。
- 攻撃者の行動分析による予防基盤技術に関しては、現行の記述の範囲に含まれるため、今後の検討に当たっての参考とさせていただきます。

番号	区分	該当箇所	概要	ご意見に対する考え方
1	個人	先進的な技術要素全般	日本の先行者優位を保ち、かつ、日本発の技術を世界に浸透させるために、技術の研究開発のほか、その技術を世界に普及する社会科学的な戦略研究も同時進行で行うべきと考える。	*ご指摘の内容については、今後の検討に当たっての参考とさせていただきます。
2	個人	2.2.1. 重要分野⑤ 攻撃者の行動分析等による予防基盤技術 ■要素課題 (2) 攻撃者のインセンティブと脅威の低減に関する研究	<p>「純自己技術力顕示欲」に駆られた攻撃勢力の行動分析や、自己保存・自己肯定傾向をもつ攻撃を抑止するための対策として、「クローズドネットワーク」、および「水平分散型モデル」を現実世界からコントロール可能にするための技術面・管理面での対策を研究開発目標とすることを提言するため、原文を以下のように修正してはどうか。</p> <p>(原文)          攻撃の影響度とその防御のコストの関係や、攻撃のインセンティブを低下させるためのコストなどを考慮して、情報セキュリティ経済学等の観点から、適切な防御策の選択を行う手法を開発する。攻撃の採算性を下げる等により、攻撃者のインセンティブを低下させ、セキュリティリスク全体をコントロールする。例えば、防御側のシステムの構成が頻繁に変化し有効な攻撃法の特定コストを増大させる等。</p> <p>(修正案)          攻撃の影響度とその防御のコストの関係や、攻撃のインセンティブを低下させるためのコストなどを考慮して、情報セキュリティ経済学等の観点から、適切な防御策の選択を行う手法を開発する。攻撃の採算性並びにプロパガンダ波及効果の抑制を図る等により、攻撃者のインセンティブおよびモチベーションを低下させ、セキュリティリスク全体をコントロールする。例えば、防御側のシステムの構成が頻繁に変化し有効な攻撃法の特定コストを増大させる、またクローズドネットワークや水平分散型モデルに対して一定のトレーサビリティ、アカウントビリティを確保する等により、事実上無法・無秩序状態にある仮想世界を現実社会からコントロール可能にする。</p>	<p>*御指摘にあるような種類の攻撃に対する考慮については、「重要分野⑤攻撃者の行動分析等による予防基盤技術(2)攻撃者のインセンティブと脅威の低減に関する研究」の内容に含まれていると認識しています。</p> <p>*また、「クローズドネットワークや水平分散型モデルに対して一定のトレーサビリティ、アカウントビリティを確保する等」についても同様に、「重要分野⑤攻撃者の行動分析等による予防基盤技術(2)攻撃者のインセンティブと脅威の低減に関する研究」における防御側の対策の選択肢に含まれると認識しています。</p> <p>*ご指摘の内容については、今後の検討に当たっての参考とさせていただきます。</p>